

## 令和8年度第1回 安芸太田町総合教育会議 会議録

|                   |   |                                  |
|-------------------|---|----------------------------------|
| 招集年月日             | 令和8年4月13日（火）  |                                  |
| 招集場所              | 川・森・文化・交流センター3階 エコ学習室   |                                  |
| 開閉会日時             | 開 会   | 令和8年4月13日（火）午前9時30分              |
|                   | 閉 会   | 令和8年4月13日（火）午前10時30分             |
| 出席・欠席委員           | 出席委員  | 橋本博明<br>大野正人、清胤祐子、池野博文、河本千絵、小田純子 |
|                   | 欠席委員  |                                  |
| 職務により会議<br>に出席した者 | <p>教育委員会事務局員</p> <p>教育次長 長尾 航治</p> <p>教育課長 清水 裕之</p> <p>同課 主幹 小坂 法美</p> <p>同課 主幹 佐々木 裕美</p> <p>庶務</p> <p>総務課長 二見 重幸</p> <p>同課主幹 浅田 敬文</p> <p>同課 係長 川中 志保子</p> |                                  |
| 協議事項              | <p>協議</p> <p>1 教育大綱の進捗状況・新年度の取り組みについて</p> <p>2 その他</p> <p>① 学校における働き方改革取組方針</p>   |                                  |

## 議 事 録

(午前9時30分 開会)

○浅田主幹

令和8年度第1回の安芸太田町総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。それでは、開会にあたりまして町長から挨拶をお願いいたします。

○橋本町長

おはようございます。町長の橋本博明でございます。本日はお忙しいところ総合教育会議の方にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また日頃から、教育委員会の皆さまにおかれましては、安芸太田町の子ども達の教育の充実にむけて、本当に様々な立場でご尽力いただいている事に重ねて感謝申し上げたいと思っております。ありがとうございます。年に1回以上、開催ということで、町長部局と教育委員会との間で、意見交換をさせていただく貴重な機会だと思っております。いつもお話をしております教育大綱をまとめて、私なりに本町にとって必要な教育、あるいは、本町ならではの教育を是非追求したいということで、お示しをして以来、その実現にむけてご尽力いただいているところでございますが、この総合教育会議というのは、そういう取り組みについて、町長として進捗状況確認をさせていただくと共に、進めて行く中で様々なご意見もお有りかと思っておりますので、そういうご意見を委員の皆様からいただきながら、更に本町の教育についてブラッシュアップを重ねていく、そういう重要な貴重な場ではないかなと思っております。そういう意味では、是非忌憚のない、ご意見をいただきながら、取り組みを進めていきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

○浅田主幹

ありがとうございました。それでは、教育長からご挨拶をお願いします。

○大野教育長

皆さん、おはようございます。大変お世話になっております。本日はお忙しい中、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。教育総合会議ということですけど、この教育総合会議というものを開催するのは、どの自治体も上手くいっていないというところがあります。どちらかと言うと、何か大きな事象があった場合に、それに対してどのような対策を打っていこうかというようなところが大きい論点になっているところですが、本町の場合幸いそういう事もございませんし、そうではなくて、より一層教育を良い方向に進めていくということでの、開催ということに非常に教育委員会としても有難く思っているところです。昨年度は、特に「森のようちえん」ということで、自然保育の方が、大きく動きましたけれども、それ以外に教育委員会としても複数の施策に取り組んでいるところでございますので、その辺のところも今日ご紹介できればというふうに思いますし、教育委員会という機関は合議制の機関でございます。とは言うものの、中々私教育長、或いは事務局の方は発信していく機会も多くあるんですけれども、普段から教育委員の皆さんのご意見を発信していく機会が、それほど多くないものですから、今回はより良い場ではないかなと考えております。先程町長も申されましたけど、教育委員の皆さんのご意見を今日どんどん出していただいて、より良い方向に進んでいければなと思います。短い時間ではございますけど、よろしくお願

いたします。

#### ○浅田主幹

ありがとうございました。それでは、ここから総合教育会議の協議事項に入らせていただきたいと思えます。その前に、本日の会議の時間設定ですけど、今日この後、教育委員会会議が開催とお聞きしております。ですので、当総合教育会議は午前 10 時半を目途に進行させていただきたいと思えます。

それでは、あらためまして、総合教育会議の成立についてです。この会議は「安芸太田町総合教育会議設置及び運営規則」に基づいて開催するところですが、同規則の第 3 条第 3 項に「教育会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する」とございます。本日、町長、教育長、教育委員の皆さん、計 6 名の出席をもって過半数を超えておりますので、成立となっておりますことをここに報告させていただきます。

それでは最後に、当会議の進行についてですが、要綱には進行のことが記されておられません。ここから先の進行について町長の方へお願いしたいと思えますが、よろしいでしょうか。それでは、よろしくお願いいたします。

#### ○橋本町長

僭越ながら、総合教育会議の進行というか、説明させていただければなと思えます。協議事項の 1 に教育大綱の進捗状況、新年度の取り組みについてということをお聞きしております。先程の挨拶でも触れたように、私としては、教育大綱という形である意味、目標設定をしているつもりでございますので、その進捗状況、あるいは、その進捗を進めていく中でのその教育大綱そのものについての、ご意見も勿論結構でございますので、まずはその辺りからお話をお聞かせいただきたいと思えますが、どうでしょうか。今の取り組みについて資料を用意してもらっていますので、森のようちえん事業をかなり進めてもらっているように認識しておりますが、そこら辺りから状況をお聞かせもらうことでよろしいですか。お願いしましょう。

#### ○長尾教育次長

事務局からはですね、資料を少し添付しております。教育委員の皆さんに関しましては、この事業は、教育委員会等でお話をしております。今日写真付きの資料を付けしております。これは教育大綱の方に、「何でも学び、遊びも学び」「好奇心を刺激する学び」といったところから、自然保育教育の推進という所をメインにこの 1 年、時間をかけて取り組み、また、広島府の自然保育認証を受けたというところは、ご承知のとおりです。写真等見ていただいている通りなんですけど、またこれから、良い季節がやってまいります。特に園外保育がやりやすい時期になってくると思えます。勿論、冬には冬の楽しみ方というのがあるんですけども、これからの季節はですね、新緑が芽吹いてきて、川の中にも入っても冷たくないというような時期きますから、そういったところでは、1 週間に 2 回ぐらいの園外保育、今年度に関しましては、園外保育だけではなくて、園庭を使っている屋外保育といったところを進めていきたいということで、予算の方もそういった形で要求をしているというのは教育委員会でもお話をしたところなんです。いわゆる町長が掲げられました、「森のようちえん事業」に関しましては、現在進行形で進んでおります。また事務局の方から、お話としては初めてになりますが、当初予算では表れていない部分なんですけど、町長の方から具体

的に、森のようちえん事業、自然保育事業について、しっかりと町外に向けた発進も含めてやってほしいという話がありました。議会の方からも、素晴らしい保育環境を持つてをしっかりとアピールして、定住施策につなげてほしい。こういった話がございました。我々として、できる部分は、まさにこの、「もりみん山のこども園」のこの事業を、さらに磨きをかけていくところもなんですけれども、この活動、取組状況を、しっかり広報して行きたいと、先日町長の方にお話をして、認められている予算の中で、これを活用しながら広報に少し力を入れてやっていきたいと考えております。現在、この自然保育の様子を動画撮影しながら、もちろん、子どもたちの肖像、動画が映り込むところに関しては、慎重に配慮しながら動画を作成して、例えば動画で SNS にアップして行くとか、定住政策の媒体として使えるような素材づくりというのを今年度早々からやっていきたいと、考えております。

良い季節でしっかり活動している状況を動画に収めていきたい。我々も動画はあのもちろん事務局の方でも撮ってるんですが、できれば町内にもそういった事業者、プロの方がいらっしゃいますので、そういったところに少しお願いしていきたいと言うところを先日町長と話をしております。そういった事業を今年度は展開していきたいと思っております。

#### ○橋本町長

はい。ありがとうございました。少し広報の話になりましたが、それはまたお話しさせてもらえばと思います、まずは、今進めている、森のようちえん事業、「もりみん山のこども園事業」ということで、安芸太田町らしい名前を付けていただいた取り組みですが、この取り組みそのものについて委員の皆さん何かご意見がありますでしょうか。なんでもお気づきのことでも、良い、悪い、あるいはこうした方が良いか、あるいはこんな課題があるとか取り組みそのものについて何か、進め方等でも結構です。お願いします。

#### ○清胤委員

とても素晴らしい取り組みが、県やあちこちからも認められて安芸太田町全域で、この「もりみん山のこども園」、副題が良いですね。～こもれびの森ひみつきち～っていう発想が出来ている。特に地域の方々の喜びの声をよく聞きます。子どもが本当に少なくなって小さい子どもの姿を見ることもなくなった、あるいは小学校も統合でスクールバスに乗って登下校するので行き来の姿も見るものがなくなって、さみしい声ばかりだったんですけど、こども園事業が始まってから度々子どもたちが園外に出られて地域のお年寄りの目にも触れることができ始めて、それでお年寄りも元気をもらっていますっていう、声がいっぱい届いています。広報ね、これから力を入れられるっていうことは本当にこの町の人口増加にもつながっていくと思いますので、もう子どもたちのおかげで、また子どもたちが増えるようなそういう広報をして、ただお顔がこう今出ると、ちょっと難しい時代になると思うので、今京都の小学生が居なくなったとか、だから安心安全がまず一番にあって出かける前の健康チェックとか人数何人とか当たり前ですけど、帰ってからも怠りなく健康チェック人数何人っていうのは、それから保護者の方にもし登園してなかったらすぐに連絡していただくとか、今回の京都の事案なんか見てましたらやっぱり、何をさておいても安心安全だなとそのことはどうかよろしく願いいたします。

#### ○橋本町長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○小田委員

とても良い企画が認定されて、すごくよく歩くので体力も付いたってということで、小学校に行っても体育とか持久走とか結構そのあたりにも役立つんじゃないかなと思っています。そのあたりも引き続き、これをやる前と後でどれぐらい体力がついた等の調査ができればいいんじゃないかなと思いました。ただ、歩くのが苦手な子もいるんじゃないかなと思います。そういう子には、配慮されているのかなっていうのがちょっと心配なところがあるので、苦手な子はちょっと途中一人だけ車に乗って帰るとかの配慮があればいいかなと思います。今日歩く日だから嫌だなというふうにならないように、苦手な子もだんだん歩くようなことができるようになればいいかなと思っています。

○橋本町長

ありがとうございます。今の話で言うとその実際のエビデンスというか、この「もりみん山のこども園事業」の効果みたいなものが、何か検証できたりするんですかね。効果の検証、せっかくやっている取り組みでもあり、おっしゃった体力面で向上があったとか、なんかそういうものをエビデンスとして示せるような調査研究みたいなのはあるんですか。

○大野教育長

勿論、一番大切なことだと考えております。例えば体力がどのように向上したかはですね、小学校の方でもそういうような、測定がありますのでそういったところで検証していくことは可能であると思いますし、自然保育をして行く中で、私もかねがね申し上げていることなんですけれども、情操的な面も育ちが大きいんですけれども、それ以上に、いわゆる認知的な、いわゆる学力ですね小学校中学校での学習に繋がっていく能力の向上も大きいと言われております。その辺のところも小学校、中学校に入ってから学力テストの結果等も検証しながらですね、それはエビデンスですね、じゃあもう少しどういうところを改善していけばもっともっと良くなっていくのか、こども達に良い影響を与えるのかというようなところにつなげていきたいなというふうに考えているところでございます。もちろんその辺の調査研究ですね、積極的に進めて参りたいと思います。ただですね、すぐに結果は出て来ないというところがありますので、例えば特に、この取り組みを時間をかけてやり始めたのは、今の1年生が初年度の子ども達だと言うふうに考えておりますので、その初年度の子どもたちがどのように体力的なことも、学力的なこともあるいは情操面も含めて育っていくかということが一つの楽しみでもあるし、一つのプロセスであるんじゃないかなというふうに考えております。積極的にそういうエビデンス調査は進めてまいりたいと思っています。何よりも、一番喜んでおることが、保護者の方へのアンケートを園の方でしており、これは各段に良い結果が去年も上がってきたんですね。例えばあさひのアンケートなどを見せてもらうとですね、各段に良い評価をいただいておりますので、その辺のところも先ほど次長からお話をさせていただきましたけれども、しっかりと広報していくということも大事だなと思っています。以上でございます。

○橋本町長

アンケートもあるんですかね。

○大野教育長

そうですね。

○橋本町長

それはもう見られていますか。

○清胤委員

訪問の時に教えていただきました。

○橋本町長

もう一つご指摘があった、中には歩きが苦手な子どもさんが居られたり、外に出る事そのものが嫌なお子さんもやっぱりおられた、今のところ聞いていたのは、そういうお子さんもちょっと、変わってきて、積極的に参加されているっていうのを耳にしたんですが、何かそうは言っても、歩くのは苦手なお子さんに対する特別なケアというか、なんかやってるんですかね。

○長尾教育次長

これ、くどいように言うんですけども、実際の自然保育をやっていくにあたっては、かなり人数が必要になってきます。保育士のメンバーの人数が必要になってくる。従いましていただきたい園外保育をやる場合はですね、三歳児以上の以上児さんを例えば全員と言う形にすれば、あさひ、戸河内であれば学年担がそれぞれ居ますから、最低 3 人そこに付きます。加えて補助メンバーの人間が 2 人以上つく。このような形で実施をしていますので、例えば途中で疲れたみたいな事は確かにあります。そういった場合はその補助につける保育士が、面倒みるとか、先ほどのように園内に残った子どもの保育の対応も必要で、確かに今の園児の数からしてみると保育士の数が多いんじゃないかなというところは、よく言われるんですけども、魅力ある保育作りといったところでは、そうしたことも含めながら継続的にこの保育士の人員を確保して、教育というのはやっていく必要があると思っています。

○橋本町長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

○河本委員

今この写真とかを見るだけですごくこちらワクワクするというか、ここどこなんだろうと思ってこう見る、生き生きした感じがすごく伝わってくるので、多分園の中では保護者宛の今日ここへ行きましたとかいうお知らせとかが届いて、お家の方もそれを認識しながら見られると思うんですが、その他の園の保護者とかも町外の人先ほどの広報で、こういうのが流れたら、ちょっと行ってみようかなという気持ちになると思うし、その行ったことで本当定住、こちらに来ようと思う人もいるかもしれないし、良い事だなと思ってみました。安全面はきつとすごく事前に一箇所、一箇所調査して調べて行かれてると思うので、行かれてる場所に関しては多分安全な場所なんじゃ

ないのかなと思うんです。そういう面でもどんどんアピールして、こんな良い所があるよっていうのをしていただけたらなと思いました。

○橋本町長

ありがとうございました。せっかくですから、池野委員さん。

○池野委員

ちょっと違った観点からお話したいと思います。今子育て支援がいろんな、各市町で展開されます。以前から医療費とか給食費とか保育園の経営とかいろいろ言われてますが、結局今例えば給食費が、今年から安芸太田町の小学校は無料になるっていうことなんです、差がつきにくくなりましたね。先進的な取り組みが紹介されて、あそこで子育てをしたいという形のものも少なくなった政策面ですね。そういう意味ではこの自然保育と言いますかこれを前面にうち出して、他が真似ができないという強みをもっと PR するってことでさっき言われた、広報を充実させていく、安芸太田町で子育てしたいと思う人が増えるんじゃないかと思います。喫緊の話ですが4月12日に私の住む自治会で総会があったんですが、そこで定住住宅に入られた方の自己紹介を開かれて、非常に心強かったです。若い人が入るってことです。特にあの広島県は転出者が全国で多いんですが、若い人がある程度入ってくればそんなに人口減少を抑えるということが、できると思います。どうぞよろしくお願いします。非常に心強かったです。

○橋本町長

ありがとうございました。今ご指摘あった子育て施策もやっぱり競争なので、良い施策だとみんな真似しちゃうんですよね。ですからだんだん特徴というのが薄くなっていくというのがあるなと思います。

そういうのが自然というのは一つやっぱりなかなか真似ができない取り組みだなと思っています。実は少し前に、IGL という社会福祉活動をされてる結構大きい団体ですね。こども園をやっておられて、全部で7園経営されてるんですが、7園全部これから自然保育に振ろうと言う話をされてるんですよね。そうは言っても、安佐南とかそこら辺が中心なので、やっぱりなかなか自然保育と言ってもそのすぐ近くに良い自然がない。どうするかっていうと安佐北のIGLの本社がある、安佐動物園のすぐ下なんですけど、あその山を一つ買って、その山をそういうフィールドにするんだって話をされておられて、それはそういう取り組みがあるなと思って、確か市内のいくつかのその自然保育をやっているところは、自分で、裏山を買ってそこをそういう風にするみたいな取り組みは結構、聞くんですよ。うちはそれをしなくても、使えるところがたくさんあることが強みだと思っています。市内ではやっぱり、なかなか展開しにくいし、あえてお金をかけてそういうフィールドを作らなきゃいけないっていうのは、大変だなと思ったところで、今年、それぞれの園庭をちょっと整備する予算を確保されたということで、どんな風に作ろうとしてるのかは、すみません僕にも教えてもらえればなと思ったりするんで、これから考えるのかもしれないけど。

○清胤委員

アスレチックみたいなのが多いんじゃないですかね。この写真を拝見していて、二枚目の表で、すごく思ったんですけど、足が露出しているのが多いんですよ。子どもの。夏場だからだと思うん

ですけど、マダニとか今頃ね、よく言われますよね。刺されてからでは遅いのでやっぱり、何か着ていればマダニってすごく防げるって聞きましたので、園外保育の時には長ズボンでお願いしちゃうっていうのを、保護者をお願いしたほうがより安全なんじゃないかなって、何かに刺されたりしてからじゃ遅いかなと、ひっかき傷とかもできにくいですし、それはこの写真見て思いました。川遊びは長ズボンは無理でしょうけど、あのこうやってお弁当食べるときや木登りとかの時にやっぱり肌がなるべく露出しない方が良くないかなと思いました。

○橋本町長

その辺のご指摘はいかがですか。

○長尾教育次長

確かにですね、川遊びの時とかは、靴なんかもそうなんですけど、川遊びをするための靴なんかご購入頂けませんかというお願いは、園の方からさせてもらったりはしております。なかなかですね、保育ということで預けていらっしゃるんですので、全てが全てあの意思疎通できてるかというところちょっと悩ましいんですけども、実際のところ言うと、こういった活動を今日は明日がこういうのを予定してますっていうようなことを、しっかりとお話しをさせていただいているんです。その今、服装とかなんとかっていうところはもう本当に基本的には保護者の方にお任せをしているような状況なんですけど、そういった時には、委員の方からありました、話については少し園のほうにおろしてですね、話をさせていただきます。

○清胤委員

なるべく安心、安全ということで、これが広報で外に写真が出たときに、広島市内の方々から肌が露出したままで、外に行ってるのかしら。なんて言うことに指摘になりかねないので、なるべくはいどうかよろしくをお願いします。

○河本委員

ちょっと反対意見になるかもしれないけど、親も考える力がいるかと。ともちよっと思ったりします。だから怪我をしたりとかいうことがあった時に、じゃあ次はこんな格好をしてこうとかいう会話もいるかなと、私もどっちかという気が利かないので、あ、しまったってことは過去には多々あったんですけど、自分自身を振り返った時にはそのことをもうちょっと考えれる親にならなきゃいけないかなというのはたくさんありました。

○清胤委員

強制とか服装の決まりじゃなくて、そのほうがいいかなっていう感じでお勧めの服装はいるかなと思いますけど。

○河本委員

私はすごく保育所の先生たちに頼って生きてきたので、あのオムツも保育園で外れたような生活をしてきたので、ちょっと頼りすぎてた時もあったんですけど、安心して預けられる環境はすごく作ってくださってたんですよ。それにまた外にも広がって行っているからすごいなと思うんですけど

ど。すみません、自分を振り返ってのあの反省なんですけど。

#### ○橋本町長

今ね、確かにマダニ見たことないっていう若い人結構おってですよ。だからわからない方もおられるという意味では、注意を促す必要もありますし、でもそうは言っても考えていただく必要もあるし、公立の難しさと思いつながらこういう自然保育というのはやっぱりどうしても保護者の理解がないと、できない反面、保護者にとってもやっぱりそうはいつてもリスクを負っていただかないといけない部分でもあると思うんですよ。その辺のバランスがやっぱり難しいなと思いつながら、両方重要なご意見だと思いつながら、どうするか、考えていただくというのが丸投げじゃ申し訳ないんですけども、両方必要なことだと思います。

#### ○大野教育長

この自然保育をこの町でされて、それを進めていく上で、まず園長先生とか所長先生とかと最初話していく中でやっぱり一番心配しておられたのが、危険を伴うということでそれに対して保護者の方がどう思われるかということが大変心配されておりました。そのことがあったものですから、なかなか各園所としても踏み出すのに時間がかかったという経緯があるんですけども、その辺のところをしっかりと心がけていただいて、今本当に先ほど申しましたけれども、非常にこの実施の後で、いい保護者からのアンケートの結果なんかもあるというのはやはりその辺のところも含めて、何が不安だと言うこと、あるいは、どのような効果があるんですよということを含めて、しっかりと保護者の方に理解をしていただいているんじゃないかなというふうに思うんです。その結果、良い形でのアンケートの結果が出てきてるんじゃないかなと思いますので、何をおいてもしっかりと園所の方で危険もしっかり察知すること、そしてどのような効果があるということを検証した上で、保護者としっかりと話していくと、そしてそのことを子どもたちにもしっかりと理解させた上で、自然の中に入って行くということができている結果ではないかなというふうに思っております。手前味噌の自分ところの園所を褒めることになってしまいますけれども、そういうところが良くできているんじゃないかなというふうに思っております。ただその辺のところですね、この写真をぼんと外に出してしまうとやはり誤解を招く可能性もございますので、そういうことができてるんだよと、できた上でやってますよと、いうことも踏まえてですね、宣伝していければなというふうに思うところがございます。本当に園所長含めて、先生方よく考えてやってますのでね、非常に頭の下がる所でございます。手前味噌で申し訳ないんですけども。

#### ○橋本町長

ありがとうございます。そういった事は実施にあたって少し気になってるのは現場の先生方の負担感というか、今の人の確保という話もちよつとありましたがこころへんどうでしょうか。皆さんも何か感じておられることがあれば。

#### ○清胤委員

それは視察というか園を見に行かせていただいた時に、先生方がむしろ喜んでますって園長先生仰ってましたよね。外に出る日は楽しみにしてるって仰ってました。なんかリラックスするんじゃないでしょうか。最初は園長先生も心配だったんだけど業務を増やすようで、物凄く楽しそうに

張り切って行ってくださってるって、あえてそういうお話がありましたので。

○橋本町長

そこは、ちょっと気になってるところがございますので、委員の皆さんも引き続き、しっかりちょっと見ていただきながら、今年はちょっと現場に出るのに私も誘われてたりするので、ちょっと1回ぐらい見ようかなと。先生風な格好で、行ってみたいなと思っております。

○河本委員

負担になるって、後からの報告とか事務処理ですか。

○長尾教育次長

事務に関しては、勿論一日の振り返りというのは担任は必ずやっておりますし、子どもの様子に関しては、保護者の皆さんにお伝えするという事で丁重に書いてご家庭の方にお渡しする。こういったことはもちろん日々の生活の中で必ずやります。自然保育をやっているからということではなんなら変わりは特にございませぬ。ただ出るにあたりましては、やっぱりそのフィールドの安全確認であったりとか、そのための技能のスキルを身につける、研修ですな安全対応とか心肺蘇生術の研修ですとか、こういったことが負担になるといえばやっぱり負担になってるんです。ただこれはやっぱり保育士のスキルにもつながっていく部分なので、非常にあの先ほど清胤委員からありましたように、保育士も個々で見れば非常になんて言うんでしょう、この自然保育に対して、以前とは桁違いの理解力というか実施をしたいと言ってくれる保育士が増えました。で、一方でやはり先ほどのような人数の調整の部分で言うとやっぱり足りない部分がどうしても出てくるので、この辺り事務局としてはですね、町内の保育士人材がいなくてどう確保して行くかこれが今後の大きな課題じゃないかなと思っております。

○橋本町長

ありがとうございます。森のようちえんばかりやっていると時間が足りなくて。その絡みで言うとそれ以外にもいくつか教育大綱の方には書かせていただきました。今の人不足の関連とも含めて言うとこれはボランティアというか町民の皆さんに積極的に参加いただくというのが一つの解決策ではないかなと思っております、或いは町民の皆さんに参加いただくことそのものが町づくりに繋がるといって書かせていただきましたが、この点とか、あるいはそれ以外の協調学習さらに言うと何といたうでしょうか好奇心を刺激する小中学校での取り組みみたいなことについては、委員の皆さんも何かございますか。あるいは感じたことでも結構ございます。

○大野教育長

まず、ボランティアの方から話をさせて頂ければなというふうに思っております。現在、登録者数が36となっておりますけれども37名でございます。37名と聞きますと非常に少ないというふうに思われがちなんです、これ児童生徒一人当たりのボランティア数で考えると、この37名の方が、殆どどの小学校、中学校、園所でも、私ができることはしますよというような形で登録をされていますので、ひょっとすると、児童生徒園児一人当たりのボランティア数というのはとんでもない数字にパーセンテージになるんじゃないかなというふうに考えております。だいたい都会の

学校で、こういう学校支援ボランティアさんのパーセンテージから言いますと、児童生徒一人当たり、それこそ0.01人であるとか、そのくらいのパーセンテージになってきますので、そう考えるととてつもなく大きな数字で逆に各学校園所が活用できていないという現状がございます。

もう一つの大きな特徴はボランティアさんの登録が多世代状況になっているってということなんです。これも大きなところでございます。10代のお子さん大学生のお子さんから、60代、70代の方が一番多いんですけど、幅広い世代が希望されているというところが、非常に大きな特徴であるかなと思っております。またその下の町内全域をカバーするというところで、先ほど申しましたけれども、どこ行ってもいいですよっていうような形の方が非常に多くいらっしゃるということです。じゃあどんなボランティアができるのっていうことなんですけれども、学習の補助をしますよとか、読み聞かせをやってますよとか、外国語の支援もできますよというような教科学習の支援であるとか、園所の保育についてお手伝いしますよ、例えば先ほどの森のようちえんについて行きますよというように、希望されている方もいらっしゃいますし、文化芸術について、お手伝いできますよ。特にここ最近強く希望されているのは、加計小学校、加計地域のマーチングですね、それもお手伝い、この伝統を是非とも続けていきたいという、その辺のボランティアさせてもらったらなというお声もあがっています。何より環境が、この職員の数も少ない中で学校のグラウンド一つにしても、なかなか良い管理が難しい中で環境安全任せてくださいという形で、自らトラックや重機を持って来られて、グラウンド整備をしてくださると言うような方もおられて非常に助かっております。学校によっては、学校が本当に綺麗になったと言うような形で雑草なんかもしっかり抜いていただいたり、除草していただいた上で、虫が出なくなっ、子どもたちの安全に暮らしているというところもありますし、文化芸術ですね、この辺のところも神楽で入っていただいているというところですね、非常に大きな役割を果たしているんじゃないかなという、まさにこの町の一番いいところは、もちろん自然もあるんですけど、やはり私自身ずっと兼ねて申し上げているのは、この町の方ですね一番の教材は人なんだよっていうのを思っておりますので、その辺のところの一つ一番大きな原動力になっているのではないかなと思っています。個性を活かした高度な知能技術ということで林業体験の方も、させてもらいますよというように形で、手を上げていらっしゃる方もいらっしゃいますし、やっこの辺のところが各学校園所で動き出したなとボランティアさんに来ていただくという習慣ができたなというところがあります。特に安芸太田中学校はどんどん入ってきてくださってますので、この前も私入学式にお邪魔したんですけど、その時の校長の話の中で一番に上がってきたのがこの地域の力ということですね、地域の方にどんどん入っていただいてそういう学校ですという紹介ですね、校長がされてたのが非常に印象的ですので、この辺のところをしっかりと結び付けていきたいなというふうに思っておる、子どもたちのために結び付けていきたいなと考えております。

それからですね、園所の事ばかりということでもございましたので、やはり大事なことは園所から、中学校まですべて町立なんですよね、0歳から15歳まで。これはもちろん加計高校も県立の学校、寮も町立ということに繋がっていくんですが、まずは0歳から15歳、このシームレスな学び、そのこのところにどう繋げていくのかなというのが今年度以降のテーマではないかなと考えております。特に今年度は中学校の方に力を入れて行きたいと考えておまして、議会でもよく話題になりますし、総合ビジョンにもあげられているんですけど、太田川ですね、太田川について考えていく学習に結びつけていこうじゃないか、小さい時に太田川で遊んだその経験を今度は大きくなっていくと、それを知識として得て、そしてそれを考えていくと話し合っ、考えていくというふうに結び

つけていこうということで太田川の学習を中学校を中心に小学校の方につなげていくという形で、考えています。これの原動力になるのはおそらく加計中学校の方ではないかなと考えておきまして、そんな形でやって行くという計画を立てています。先ほども話をしましたけれども、保育所、こども園で体験したことが、それが小学校中学校に行って体験が今度はそれが知識につながってそしてそれが探求につながっていくというような形で、保育・教育が一貫してグラデーションということで学び進めていくと言うような形でつながっていくんじゃないかと考えています。

まだ具体的な形はできていないんですけども、私のほうで勝手に命名させていただいてるんですけども、安芸太田について学ぶ特に太田川を中心にして学んでいくと言うようなことで、安芸太田楽（アキオオタガク）ということで、ガクということが、ガクというのはこれ多分皆さんあの想像されたのが、学習の学を想像されたと思いますけど、私のイメージの中でこれ楽しむの、字をあててガクという形で、ちょっと打ち出して行きたいなと思っています。楽しみながら学んでいく、そして賢くなっていて安芸太田町を育てていくと育んでいくと言うような形に繋げていければなと言うふうに思っています。

#### ○清水教育課長

私の方からですね、先ほど町長の方からありました、協調学習の取り組みについて、こちらについては、平成 22 年度から継続して子どもの学ぶ力をいかに引き出すことができるかということで各学校で知識構成型ジグソー法を導入しながら、協調学習の方取り組んでいるところです。今年度につきましては、協調学習を実践している新しい学びプロジェクトの全国大会を本町が引き受けることになりましたので、3 小学校、中学校それから加計高校を巻き込んで、町全体で協調学習の取り組みを全国にアピールできればなというふうに考えているところです。以上、補足です。

#### ○橋本町長

ありがとうございます。森のようちえん以外の取り組みをしっかりと取り組んでいただいているなと思いながら、委員の皆さんの方で今のご説明も含めて、何かご意見がありますでしょうか。

#### ○河本委員

地域の方との繋がりを深く感じるというのも繋がっているのかなと思うんですが、うちに市内の方からこられた業者さんが、興奮しながら仰ってたんですけど、役場の前で小学生らしき子が横断歩道にいたから止まったんですよ。そしたらその子渡ったあとに、深々とお辞儀をしたんです。上方面も下方面も車に両方に深々とお辞儀をしました。すごいですねって言われたんですね。日頃ちょっとよく見守っていただいている中に自然にそういうのが出てるのかなと思って嬉しかったので全然関係ないかもしれないんですけどご報告します。

#### ○橋本町長

ありがとうございます。学校教育の関係でそうなっていると嬉しいですね。ありがとうございます。いかがでしょうか。

#### ○大野教育長

就学前と、小学校の連携については、広島県の方力をいれていまして実は明日、研修会がありま

すよね。明後日ですね。そのことについて小坂から

○小坂主幹

安芸太田町では、年 3 回小学校と、園所が連携する研修を行っています。明日はスタートカリキュラムと言って、小学校の方で園所の学びを繋いで、小 1 がいきなり小学校に入って座って学習してっていうのだと、学びが繋がらないので園所の学びを繋ぐスタートカリキュラムっていうのがあるんですけどもそれに基づいて楽しく活動しながら学びに向かうっていう形の授業参観も行います。その後に専門家の方から講義をいただいたり、授業についての協議を行ったりしています。そういったことを年 3 回行って連携をしています。共同で学習するっていう園所の年長さんと小学 1 年生と一緒に勉強するっていう機会も年に 1 回ぐらいずつ各園所学校では行っています。以上になります。

○大野教育長

すごく本町の取り組みに県教委の方が興味を示してるみたいで、たくさんの方が見に来てくださるのかなと考えております。

○橋本町長

連携がしっかり取れるというのも一つ本町の小さいからこそというかですね、ならではの取り組みかなというふうに思いますので、改めてそのことも含めて何でも結構でございます。何か委員の方ご意見がありましたら、この気づきでも結構です。

○池野委員

あえて申し上げますが、保育所が認定こども園の入所児童数が一覧いただいておりますが、これを見ると、やっぱり気になりますよね、これが 6 年後にはそっくり小学校の児童数になる。10 人前後の 0 歳児を含めてですね、これになってくると言う格好だと思います。特に修道保育所、筒賀保育所がそういう意味で、このままの保育環境でいいのかっていうご意見もあるでしょうし、距離の問題もありますけども、ある程度の集団の中で成長して行くと言う子ども達に特性を考えてですね、このまま放置ができないんだろうと思うんです。その意味で、さっきの定住住宅のところで成果が表れるように、特に加計高校の存続については黎明館が非常に大きな役割をしましたが、そういう格好で、これが一つそれだけで可能になる施策になり総合的な施策の展開の中で、児童数を確保していくということが、安芸太田町の存続にとっても大事なことだと思います。どうぞよろしく願います。

○橋本町長

ありがとうございます。

○河本委員

町内で働くところが、やっぱり親が住もうと思ったら、今市内とか行き来しながら来られる人もいるし、市内へ出る人もいると思うんですが、近くに子どもを預けて近くで働けるっていう働く場所ですよね、そういうのも安芸太田町として、誘致してくれるとかそれを絡めて人口で、それがな

いと定住もなかなか、考える時に働けるところっていうのは大事になってくるかなと思いますけど。

○橋本町長

ありがとうございます。最初の話に戻って広報の話がありまして、確かに働く場所がないとやっぱり戻れないというのもこっちに帰れないっていうのもあると思うんですが、そもそもこっちに住みたいと思う魅力もやっぱり発信する必要があると思っています。それが一つ、この「もりみん山のこども園事業」には期待しているところでして。教育委員会の皆さんは勿論子どもたちのために良い環境を作っていただくのは大事なんですけど、その前提のもと町長部局としては、これを定住施策にも繋げていきたいというその意味でも広報は頑張っていけないといけないなと思ってますね。そうは言いながらも、こっちに来るんだったらじゃあ仕事がないと困るということで、この前話したかもしれませんが、町内の事業所さんほどこも人手不足じゃないですか、働こうと思ったら働ける環境ではあるんですけど、どこでも。だからそういう意味では、なんというか働くところがないというのは実は違って働きたい仕事とかいろんな条件がもしかしたらあるのかもしれないんですけどそういうところに合致するものがないのかなということですね。

○河本委員

つらいとこなんですけど

○橋本町長

ですから、なんて言うんですかね働きたいというか、だけど別にそうは言ってもすごくの他のところに比べて条件悪いっていうわけじゃないじゃないですか決して、仕事の的に。

○河本委員

距離とか住むところがないとか。

○橋本町長

住むとこがないというのは一つあって、本当はもう少しタイミングが合えば、今回の移住、定住の住宅なんかも、もりみん山のこども園事業なんかと上手くシンクロしてれば、よかったのかもしれませんが、なかなか思うようには行かないというか、先にもう定住住宅が埋まってしまってますね。もう20戸ある内19埋まっちゃったんですね。一戸しか空いてないんですけど、その為になんというかまた新しい施設を作るというのは、タイミング的には難しいかなと思っておりますが、改めて、魅力がある雇用というと言い方がちょっとあれですけど、若い方なんかやっぱり働きたくなるような職場は作る必要はあるなと思ってまして、それは、一つは、道の駅の再整備なんですよね。そういうものとは違った、例えば大きな工場引っ張って来るみたいな事も、考えてはいけないといけないなと思ってまして、それが丁度今回加計のスマートインターがこれから、フルインター化をするので、それに合わせて、あの地域が結構平地もそこそこあるもんですから、戸河内とある意味違ってですね。そういう工場的なものはこれから別途、工場なのか、或いは物流拠点なのか、そこら辺はまた考えていかなければなりませんけど、そういうものは別途丁度いいタイミングでもあるので考えていこうかなと思っています。いい仕事があるからそこに来たいと思うのか、まずこういうところで子育てしたいなと思ってもらうのが先なのかというのはあると思うんで

すけど。

○河本委員

子どもがいる人ばかりではないので、まずここに来ようと思うような。

○橋本町長

これさえあればというのはないので、いろんなものをやっぱりやっていく必要があると思うんですが、本町で一番取り組みやすかったというか実際に成果を出していただいているのが、この「もりみん山のこども園事業」だとは思って、これをきっかけに、まず来てみたいなという方に情報をお届けすると、そこがまず絶対的にまだまだ足りないなと正直思いますので、そこはこれから、教育委員会だけじゃなくて、町長部局も頑張っていかなきゃいけないなと。具体的に、「だってそうはいっても働く場所ないでしょ」とか「住む場所無いでしょ」とって話がやっぱりそうは言ってもまあ出てきてからというわけじゃないんですが、それさえもない状態ですから。合わせて作っていく必要があると思っています。

○河本委員

長年切れ目のない教育とか、もりみん山の幼稚園の環境とかすごくいいところ、すごいいっぱいアピールしたいところがもちろんあるので、そこをうけるご協力のところをよろしくお願いします。

○橋本町長

頑張りたいと思います。

○小田委員

人数が少ないクラスなので小学校の保護者はすごい今後入ってくる人数を心配してて、今年筒賀が全部複式になって、戸河内も加計も複式になっていくんだらうなってこのまま中学校にいったら部活もできなくなるなあっていうのがすごい心配してるので、中学校の部活を安芸太田と加計一緒にするとか、単独でチームが組めないような状態にもなってるので、その時点で中学校部活ないから他に市内に引っ越すっていう人も何人かいらっしゃるので、せっかく保育所、「もりみん山のこども園」が出来て、保育所、小学校は自然に触れながら育てることを結構皆さん喜んでいらっしゃるんですけど、中学校に上がってきた時に人数が少ないんで、勉強とか部活とかちょっとどうしようって考えることになるんで、その辺ちょっと問題があるかなと思っています。

○清胤委員

本当は部活動のためには、中学校はもしかすると一校っていうのが、まだ全然早いですけど、考えてあげないといけないのかなって思います。将来的にはですね。それから、「もりみん山の幼稚園」とか、「安芸太田楽」とか、これらの取組みを広報するのに、道の駅の再整備のところに、「もりみん山の幼稚園」をしているあの町の道の駅っていうことで、それがわかりやすい遊び場、前の山からケーブルカーでもでーんと、遊べる場所、教育委員会でも発言したことあるんですけど、ちょっと他にないような、そこで「もりみん山」のことも、大きな看板で広報するというような、特色のある、せっかく今から作るんですから、もう決まってるかもしれないですけど、ありき

たりのものよりも、良いつて言うような、よろしく願いいたします。特徴がないと今もうドキッとしてもらえない。

#### ○橋本町長

そうですね、道の駅はもうかなりの中身が詰まってきたので、なかなか新しい要素というのは盛り込みにくいですが、ただ、子どもさんの遊び場というのは、大きなテーマになってまして、今も既に来ていただいているんですが、そういう施設は維持しながら、場所的にはちょうど太田川の近くでもあるんで、その太田川も含めた、展開というのは考えてもらいたいということは、事業の中に盛り込んでおります。

引き続きそういう特色は出していく必要があるかなと。今、年齢別の入所児童数と、小学校の人数をそれぞれ出してもらいまして、やはり将来的に大変厳しいなあと思っています。そういう意味でも「もりみん山のこども園」に魅力を感じて、ちょうどこの就学前の児童さんを増やしていくとか、ちょうどいいタイミングで、そういうのは活動が活発になってきたなとは思っております。まずはここの数は増やして行く、そのためには、仕事場というよりまずは、住む場所のほうが先かなと思うのですが、住む場所も合わせて、これは住宅もなかなか今からまた新しくというのはちょっと難しいですけども、引き続き空き家の確保には努めておりますので、そういう形で、まずは、この年代の子どもさんがおられる世帯に入っていただくというのはちょっと優先度が高いかなと思っております。

その上で、中学校の部活の話もありました。私もちょっと心が痛いところもあるんですが、ただ、ちょうど今中学校の部活については、学校外に出す話がありますよね。学校ではなく、地域に出していくというのもやっぱり進めていかなければいけないタイミングなのかなと思っておりますので、そこも合わせて少し、これは委員会の中でもぜひ議論いただいて、場合によってはT授業じゃない、A授業じゃない、A部活でもいいわけですから、部活だけ先行して、もう町全体で取り組むというのも一つの方法なのかもしれません。

これはぜひ教育委員会の中でも取り上げていただいて、そうは言っても学校がやはり地域からなくなるというのは大きなことだと思っておりますし、バランスを考えていく必要があるという思いもあります。どっかで決断しなければいけないことなのかもしれませんが、部活はその一手手前とかそれを先行して町全体に取り組む仕組みというのが、やはり考えていく必要があるかなという感じがしております。

#### ○大野教育長

今、子どもの数が減ってきているということで、いわゆる学校統合とかいう話が出たんですが、今の教育のトレンドと言うんですか、文科省からの流れとしては注目されているのが二つございまして、一つが少人数の授業なんです。少人数を活かしていこうという取り組みがひとつ注目されているということで、もう一つは、異年齢の授業なんです。異年齢による子どもの育ち、これに注目していこうと。これを考えた時に、まさに、安芸太田町は、少人数であるし異年齢で学習ができるということですね、つまりこれはこの町の方にとってみて、今あるいは今までの教育の考え方から言うと少しビハインドっていうか、デメリットというふうに感じられるかもしれないですけども今の教育の新しい考え方としては、それは実は最先端であるということもございまして、その辺のところを生かしていければなと言うふう考えているところでございまして。また部活動の話につ

きまして、先ほど町長の方から言われましたけど、地域展開と言うことでいま話が出ておりますので、全く今まで発想とは違う形での子どもたちの放課後、休日の支援ですね、そういう形での発想をもって、できれば全国の先を進んでいければなと言うふうに考えています。そのためには研究も必要ですし、人も必要ですので是非ともお金をつけていただければ良いかなというふうに思っているところがございます。以上でございます。

#### ○橋本町長

ありがとうございます。ちょっとあの時間配分もなく、その分内容のある議論をしていただいんじゃないかなと思いますが、その他に移らせていただいて。

#### ○清水教育課長

すみません。時間超過して申し訳ありませんが一つご紹介させてください。

別の資料で学校における働き方改革取組方針というのを提案させていただいております。こちらにつきましては、令和7年6月に成立した改正給特法に基づきサービスを監督する教育委員会は文部科学大臣が定める指針に則して業務量管理・健康確保措置実施計画を定めることとされたことを受けて本町にこれまであった働き方改革取組方針をこの計画に位置づけることを目的として新たに改訂したものでございます。この内容につきましては、この後の教育委員会会議で詳しく話をさせていただいた後、各学校に展開して行くという流れにしたいというようなところを考えております。なお、この毎年ですね、状況については町のホームページで公表するとともに総合教育会議にも報告するとなっておりますので、次年度以降、総合教育会議の中でこの取り組み方針の実施状況については改めて報告をさせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。以上です。

#### ○橋本町長

働き方改革というのは本当あらゆる面で、今進められているところがございます、冒頭申し上げた、やっぱり森のようちえんなどですね、「もりみんな山のこども園事業」なども、やはりある意味新しい取り組みである以上、先生方には間違いなく負担にはなってるわけで、その中でも充実した取り組みを進めて頂くためには働き方あるいは病気などの管理は、やはり重要ではないかなと思っておりますので、委員会事務局もちろんですが、委員の皆様にもそのあたりはまた手加えてしていただければなというふうに思っていますけれども。多岐にわたりましたがこの今の取組方針も含めて、後で説明がある部分もありますが、委員の皆様の方から何か再度これはということがあれば、いただければと思っておりますがいかがでしょうか。

#### ○河本委員

昔から中学校に入る段階で転出していく人たちをすごく見ています。それこそ、住むところが家賃がどんどん上がってくるんですね。町営住宅とか。もう住めないって言って地元の人が住んでたけど、出て行くとかという話、本当によく聞くんで。教育は教育とか行政は行政とかではなく一つの家族の中でもこういうんな問題があって、本当いろんな意見を、安芸太田町らしく取り上げながら、進めていただけたらなと本当に願っています。よろしく願いいたします。切な願いです。

#### ○清胤委員

